

世界のCEOは、今後のグローバルビジネス環境をこう見る

PwC(プライスウォーターハウスクーパース)が世界85カ国のCEO約1,300人(うち、日本のCEOは123人)を対象に実施した『第21回世界CEO意識調査』。世界経済の成長見通しや、自社の成長に対する脅威、グローバル化の貢献状況などについて聞いている。

この調査では、世界のCEOの57%が、今後12カ月の世界経済の成長見通しについて「改善する」と回答。2012年にこの質問を設けて以来の最高水準となった。しかし、自社の見通しについては、北米を除き、経済成長見通しよりも慎重な姿勢を示している。

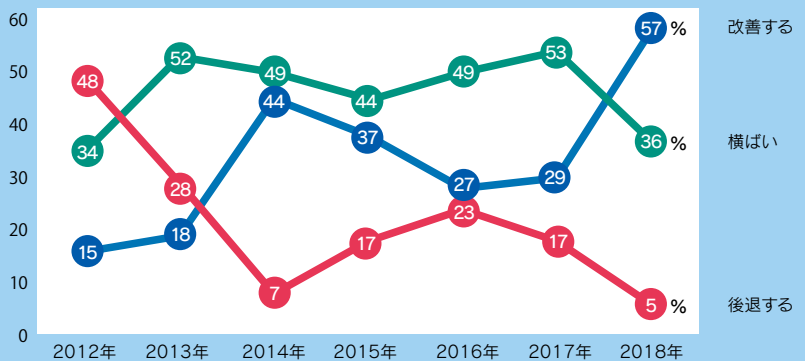
「自社が成長する上で最も重要と思われる国」としては、前回調査同様、アメリカ、中国、ドイツがトップ3を維持、日本はインドと順位を入れ替え、5位から6位に下がった。

脅威については、「テロリズム」「サイバー脅威」が上昇、「消費行動の変化」などビジネスに直結するリスクではなく、幅広い社会的脅威への懸念が強い結果となった。ただ、エリア別に見ると、アジア太平洋の場合は「人材の確保」がトップ。地域により傾向の違いが見られた。

グローバル化が進む一方で分断化への懸念もうかがえる。政治、経済、貿易面などにおける相反するトレンドについて、世界が「単一の繋がった世界」か「多面的で分断した世界」か、どちらの方向に向かっているかを聞いた質問では、多くのCEOは、「多様な考え方と価値観」「ナショナリズム」などについて、世界全体が統合とは逆の方向に動いていると見ている。「単一の繋がった世界」に向かっているのは「企業統合」「インターネット」の2つの要素だけであった。

【1】過半数のCEOが今後12カ月間における世界経済の成長は改善するとみている

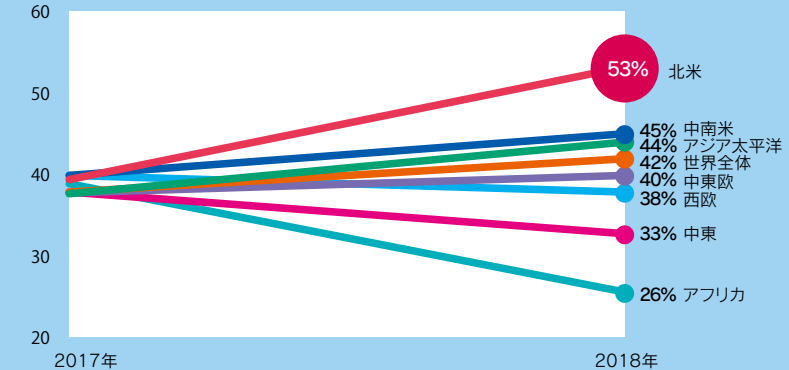
質問:今後12カ月間に、世界経済の成長は改善、横ばい、後退のうち、どの方向に進むとお考えですか



調査ベース:全回答者(2018年=1,293名;2017年=1,379名;2016年=1,409名;2015年=1,322名;2014年=1,344名;2013年=1,330名;2012年=1,258名)
注:2012年から2014年は「今後12カ月間の世界経済の成長について、回復する、横ばい、後退するという選択肢のうち、どのようになるとお考えですか?」との質問に対する回答

【2】北米を除き、世界のCEOは2018年の自社の成長について、経済成長見通しよりも慎重な見方をしている

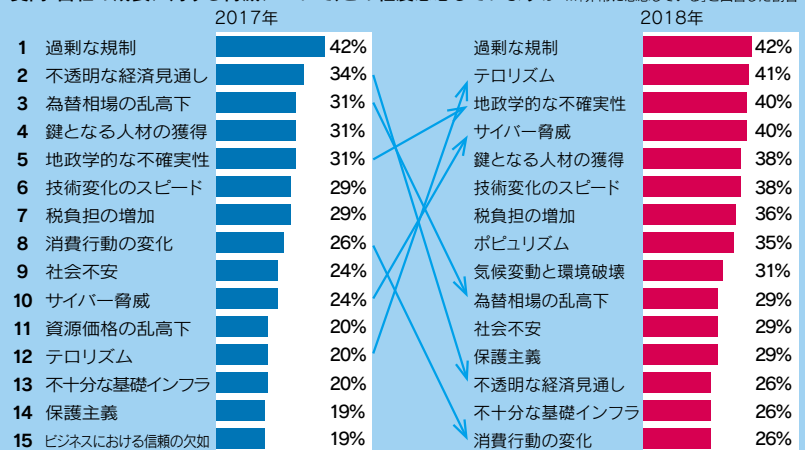
質問:今後12カ月の自社の売上見通しにどのくらい自信をおもちですか ※「非常に自信がある」と回答した割合



調査ベース:全回答者(2018年=1,293名;2017年=1,379名)

【3】テロリズム、サイバー脅威が上昇する一方、不透明な経済見通しと為替相場の乱高下は下落

質問:自社の成長に対する脅威について、どの程度懸念していますか ※「非常に懸念している」と回答した割合



調査ベース:全回答者(2018年=1,293名;2017年=1,379名)

出所:[1][2][3]PwC『第21回世界CEO意識調査』(2018年1月)